

平成 7年 4月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会
青梅市郷土資料室
(青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859)

明治中期の青梅市域の酒蔵

ヒョんなことから「南小曾木に酒蔵があった」ということを聞いた。聴取調査によってもなかなかその存在がつかめない。そこで、手元にある「皇国地誌」によって調べてみた。すると、南小曾木村の産物の稿に記載されているのではないかと。たまたま現在編集中の青梅市史の原稿を書く必要もあって、現青梅市域内の明治中期の酒蔵の所在を調べることにした。そして、ほぼ全ての酒蔵の場所は知ることができた。

ところで、皇国地誌中、村の物産に清酒という文字が記載されている村は次の通である。

青梅村…清酒806石8斗3升6号。近村へ輸送売販ス。焼酎15石4升。

西分村…清酒50石、其味美ナリ。近傍村々へ輸送売販ス。

千ヶ瀬村…酒96石。質上等味美ナリ。近傍諸村へ運輸ス。

下長淵村…酒60石。質上等味美ナリ。近傍諸村へ運輸ス。

上長淵村…酒100石。質上等味美ナリ

二俣尾村…清酒150石。質美ナリ。青梅町及近傍諸村へ運搬売販ス。

澤井村上分、下分…清酒250石、青梅町及近傍諸村へ運搬売販ス。

黒沢村…生酒183石、青梅町及近傍諸村へ運搬売販ス。

南小曾木村…清酒20石7斗7升4号。

下成木上分村…清酒120石、質上質ニシテ味最美ナリ。近傍諸村へ運搬ス。

新町村…酒5石4斗6升、質中等ナリ。

下村…酒200石、質上等味美ナリ。近傍諸村へ運搬ス。

皇国地誌が現存していない村もあるし、聴取調査によって皇国地誌中には記載されていないが、戦前や戦後のある時代まで酒造をしていた蔵も上記以外に少なくとも2蔵は確認されている。調査もれとは考えにくいので、明治中期以後からの開業なのであろうか。

それはともかくとして、聴取調査によると、青梅村も含めて、すべての各村とも一蔵である。青梅村の産額が一蔵にしては多いが、その理由は不明である。また、予測が外れ、新町にもわずか5石余りの量であるが、酒造があったことは意外であった。

今は廃業してしまったが、それぞれの酒造を訪ね、開業の動機を聴くと①土地の資産家が杜氏を雇用し開業したもの、②杜氏が資金を貯え、適地に開業したもの、③以前に酒造をしていたものを土地の人や杜氏が引き継いだものなどに分類できそうである。そして、当然のことながら、明治に入りそれも中期ごろの開業が多いようである。

(文責 川鍋)

・ 5月3日(土)、14日(日)に釜の淵公園にて、釜の淵新緑祭が行われます。
文化財映画「みたけ」の上映と講演、文化財映画「青梅新町の大井戸」、「青梅の町屋」の夕焼け映画会、体験講座「藁草履をつくろう」、また文化財保護指導員 桜岡幸治先生はかの案内によるバードウォッチングなど様々なイベントが催されます。ぜひお気軽に御参加ください。